

良縁成就・子宝成就（大切な方と良き縁を結ぶ）

妙法蓮華経方便品第二

譬ひ如によ優曇うどん華げ
一切いっさい皆かい愛樂あいぎよう
天人てんにん所しよ希有けうう
時時じじ乃ない一いっ出しゆつ
聞もん法ぽう歡喜かんぎ讚さん
乃至ないし一いっ言ごん
則そく為い已い供養くよう
一切いっさい三さん世ぜ佛ぶつ
是ぜ人にん甚じん希有けうう
過か於お優曇うどん華げ

譬たとえば、優曇華うどんげの一切皆、
愛樂あいぎようし天・人てんにんの希有けううにす
る所として時時ときに乃いま一ひと
たび出でずるが如し。
法ほを聞きいて歡喜かんぎし讚ほめて
乃至ないし一いっ言ごんをも発はつせば即すなち、
為これ已すに一切三いっさい世ぜの仏ぶつを
供養くようするなり。
是この人ひと、甚はなはだ希有けううなるこ
と優曇華うどんげに過あぎたり。

〈大意〉

この経文は方便品の中のお言葉
で、「法華経の教えに出会うこと
は三千年に一度だけ咲くという優
曇華の花を見ることのように難し
い。この得がたい教えを聞き、心
から喜び、一言でも語ることは、
全ての仏を供養したことになる。
そのような人は甚だ希であり優曇
華の花以上である。」と述べられ
ています。
逢あいがたき方との出会い、その出
会あいを感謝の気持ちをもってお互
いに敬やい、慈あしみあえる心の大切
さを説かれた文です。

妙法蓮華經方便品第二

譬如優曇華 一切皆愛樂

天人所希有 時時乃一出

聞法歡喜讚 乃至發一言

則為已供養 一切三世佛

是人甚希有 過於優曇華

年 月 日

(お名前)

謹写